

【宇部版】中小企業景況動向調査 調査レポート

2026年 4～6月期の景況 / 2026年 7～9月期の見通し

宇部市内における中小企業の業況は悪化に転じたものの、一部業種では持ち直しの動きが見られた。

今回調査のポイント

宇部商工会議所情報サービス部会では市内中小企業（下記DATA参照）の景気動向等を把握するため、2026年4～6月期の実績と2026年7～9月期の予測を取りまとめた。本調査は、3ヶ月ごとに年4回実施する予定である。

全産業のDI値は、前期より3.2%の悪化となった。業種別では、卸売業は▲42.1%から▲15.8%へ、サービス業は▲21.4%から▲14.3%へと回復した。建設業は▲14.3%から▲26.9%へ、製造業は5.5%から▲5.6%へ、小売業は5.9%から▲25.0%へと悪化した。

今期中に新規設備投資を実施した企業は35.5%、来期設備投資を実施予定の企業は35.5%であり、今期と同程度となる見込み。

経営上の問題点については、全業種で原材料価格や仕入単価の上昇など物価高騰の影響が引続き課題となっているほか、「従業員の確保難」が上位に挙げられ、人手不足が深刻化している。さらに、需要停滞や消費者ニーズの変化への対応など、需要面の課題も懸念されている。

DI(ディフュージョン・インデックス)とは？

DI値とは、企業の業況感や設備などの変化の方向性を示す指標。経済部門ごとの調査回答「上昇」「不変」「下降」をもとに、景気変動に関する複数の指数を合成して算出する。

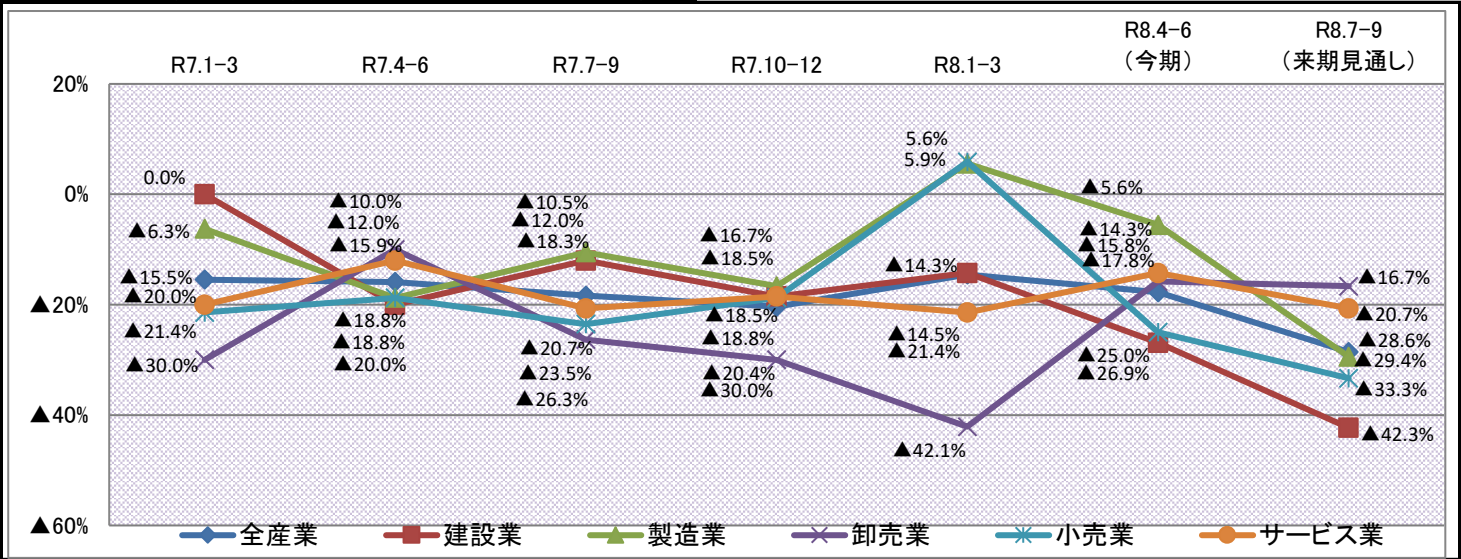
DATA

- 調査期間：令和8年6月8日～6月19日
- 調査対象：宇部市内の中小企業123社
- 有効回答企業数：112社（90.3%）

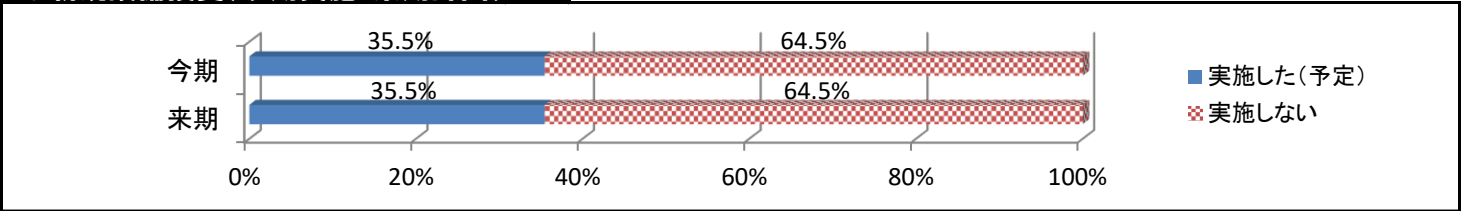
1. 業況DI値(今期の状況)

	業況	前回比	売上高	前回比	資金繰り	前回比	経常利益	前回比	従業員数	前回比
全産業	▲17.8%	▲3.2%	▲18.9%	▲17.1%	▲3.7%	▲0.1%	▲26.2%	▲10.9%	1.0%	5.6%
建設業	▲26.9%	▲12.6%	▲30.8%	▲30.8%	▲11.5%	▲11.5%	▲30.8%	▲5.8%	7.7%	7.7%
製造業	▲5.6%	▲11.1%	▲11.1%	▲27.8%	17.6%	11.8%	▲23.5%	▲29.4%	11.8%	6.2%
卸売業	▲15.8%	26.3%	▲26.3%	▲11.3%	0.0%	0.0%	▲26.3%	▲6.3%	▲10.5%	▲5.5%
小売業	▲25.0%	▲30.9%	▲10.5%	▲27.2%	▲17.6%	▲6.5%	▲18.8%	▲13.2%	▲15.4%	22.1%
サービス業	▲14.3%	7.1%	▲13.8%	4.1%	▲3.4%	7.3%	▲27.6%	▲6.2%	3.6%	▲0.1%

2. 産業別業況判断DI(今期の結果と来期の見通し)



3. 新規設備投資(今期実施・来期計画)



4. 経営上の問題点

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
1位	材料価格の上昇	21.9%	原材料価格の上昇	28.3%	仕入単価の上昇	22.2%	仕入単価の上昇	21.3%	従業員の確保難	21.9%
2位	官公需要の停滞	15.1%	生産設備の不足・老朽化	15.1%	従業員の確保難	22.2%	従業員の確保難	14.9%	人件費の増加	13.7%
3位	従業員の確保難	12.3%	従業員の確保難	13.2%	需要の停滞	13.3%	消費者ニーズの変化への対応	12.8%	人件費以外の費用の増加	13.7%
4位	材料の入手難	11.0%	需要の停滞	11.3%	人件費の増加	11.1%	人件費の増加	10.6%	利用者ニーズの変化への対応	11.0%